

域は赤土堆積度が最も高いランク8に。白保の海の赤土沈殿量が年々減少傾向にある中、5年半ぶりの異常な記録となった。6月7日にあった大雨では、工事現場から赤土が大量に海域に流出したことが確認された。

工事の中断を 市民団体訴え

市民団体「八重山・白保の海を守る会」の生島融事務局長は「白保の海の赤土汚染は新空港工事の原因と言わざるをえない」と言う。

5月には生物多様性基本法が成立し、生物の多様性の保全対策の実行を自治体にも求めている。県はアセス評価書で「著しい影響があった場合は工事をいったん休止する」とも約束している。「守る会」は、コウモリ生息地である洞窟の破壊も、赤土の大量流出も工事を中断すべき状況だとして、工事の続行は「アセス違反だ」と訴える。

海外では、希少コウモリが「待った」をかけた例がある。世界遺産に登録されているドイツ東部ドレスデン。エルベ渓谷に架かる新たな橋の建設は、景観破壊を指摘されていた。昨夏、環境保護団体が希少コウモリを危険にさらすとして行政裁判所に橋の建設中止の仮処分を求め、認められた。

ただ、上級行政裁判所が昨秋、仮処分を取り消し、工事の開始を認めた。これに対して、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産委員会は「建設計画が進めば世界遺産リストから外す」と通告。最終的な結論は出ていない。

